

郷土めぐり

八幡のオヤクッサン II

歴史的考証 蓮華文瓦

上 平 井

創建の白鳳期の古瓦」と査定を頂き、発掘者の濱岡氏より因縁の寺に納めるべきものとして寄贈され、寺宝として保管し



雪の法海寺

て大事に保存してこられた。昭和三十三年八月頃鑑定を受けた結果「法海寺鳳期の古瓦」と査定を頂き、発掘者の濱岡氏より因縁の寺に納めるべきものとして寄贈され、寺宝として保管し

ている。

★瓦の歴史 約四千年前インドで作られ「カッパーラ」と呼ばれ、これが中国韓国に伝わった。韓国へは地理的に、高句麗(四〜七世紀)百済(六〜七世紀)新羅(六〜八世紀)の順で、軒先瓦には時代と民族性を返影した特色の模様のあることが近年の研究によりあきらかとなって来ている。

★日本への伝来 仏教が公式に伝えられたのは、五三八年(欽明天皇七年)百済の聖明王が仏像や經典を献上した時で、のち崇峻天皇元年(五八八年)飛鳥寺造営の際、寺工、画工瓦博士が渡来、日本でも瓦がつくられる様になった。瓦の目的は勿論雨除けであ

るが雨は上ばかりでなく、横 または下から降ることもありこれ等を防ぐため鬼瓦や軒先瓦が考案され、さらに模様が付けられる様になった。これが瓦当文と云われる模様で、初期の瓦は一枚づつ手造りされた貴重品で瓦は重要な建物のみに使用された。蓮弁模様が主で、これが蓮華文と呼ばれ、飛鳥時代百済渡来の瓦博士によって作られた。これが素朴な模様の百済式蓮華文瓦と呼ばれるもので、時代とともにこの蓮華文の周囲に裝飾が施され構成的なものへと移行し、瓦の時代考証の貴重な資料となっている。

★知多半島周辺の瓦 七世紀の瓦が知多市周辺で出土されているのは、法海寺と奥田廃寺(知多郡美浜町奥田)の二ヶ所のみであり、この史実からみて知多市周辺は人の多数住む村落があり、而もそこには当時代の先端文化がいち早く導入されたところであり、この文化で飾られた法海寺が皆様の信仰を得て厳然として存在したことは、まことに尊い事と思う。

大乘院 水野 教宏